

# ふるさとのお話



今宮の年中行事に火祭りがありました。このお祭りは昔、今宮地区に毎年のように火災が続いたため、村人たちが村中に火をかざし、災難をはらうために始めたお祭りだそうです。旧盆の3日間を通じて行われたようですが、現在は、行われていません。

## 3晩連続で火祭り

ずっと昔の話です。今宮では毎年のようにどこかの家が火事になることが続いていました。

それに相次ぐ干ばつで不作が続く村人の生活は大変苦しい状態でした。

そこで村人たちは、「この村で何かの形でお祭りをしよう」「そしてたたりを除くようにしようじゃないか」と相談しました。

ところが、それから3日後、またも火災が発生し、折からの強い風で大火事となりました。もう、すぐに祭りをしなければなりません。

季節は8月の初めを過ぎ、うら盆が近くやってきます。

いよいよお盆がやってきました。

庄屋は村中にふれを出し、主な老

人を通じて各部落に3晩連続の火祭りをするように申し渡しました。

村人たちは村の隅々まで火をかざしたい松をふって、火を清める儀式を行いました。それから1年、昨年まで続いた干ばつもなく、不幸な火災もなくなり、村は平和になりました。

## 復活させたいお祭り

今宮に住む岡田里美さん(62歳)は「この祭りが行われたのは終戦後2〜3年ぐらいいまでだったようだね。



いまでは、火祭りがあったことも知らない人が多いじゃないかね。

ここらは伝統行事がないので、ぜひ復活させたいお祭りだね」と語ってくれました。

この村は、今の昭和放水路付近にあった村ですが、住民はなく、柏原新田の弥五右衛門が寛文の頃(1660)年代に開発したと伝えられています。「沼田」と呼んだのは、浮島沼の一部だったからでしょう。幕末には石高10石で、代官江川太郎左衛門の支配でした。石高10石というのは田畑の広さにするとおおよそ1ヘクタールになります。

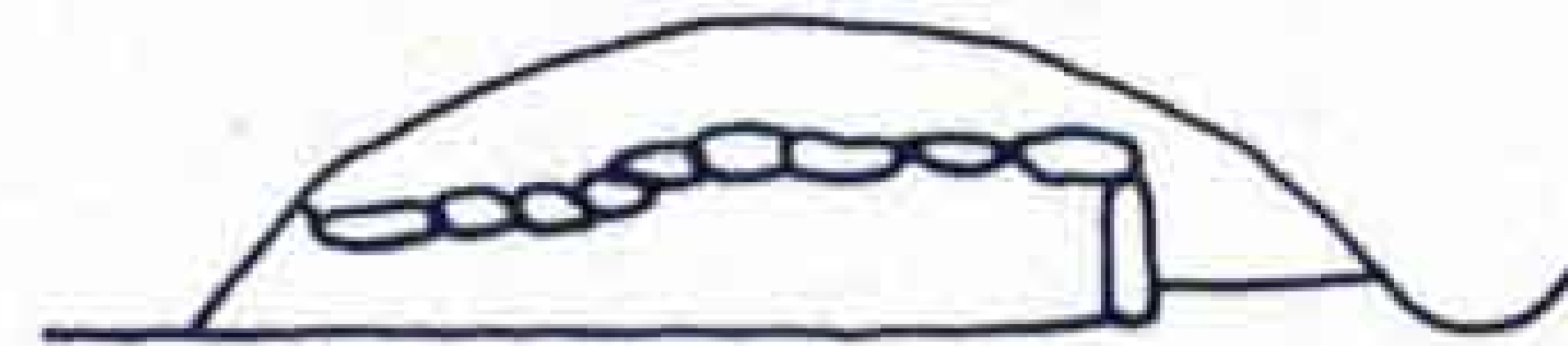
## 地名の由来

### 沼田新田



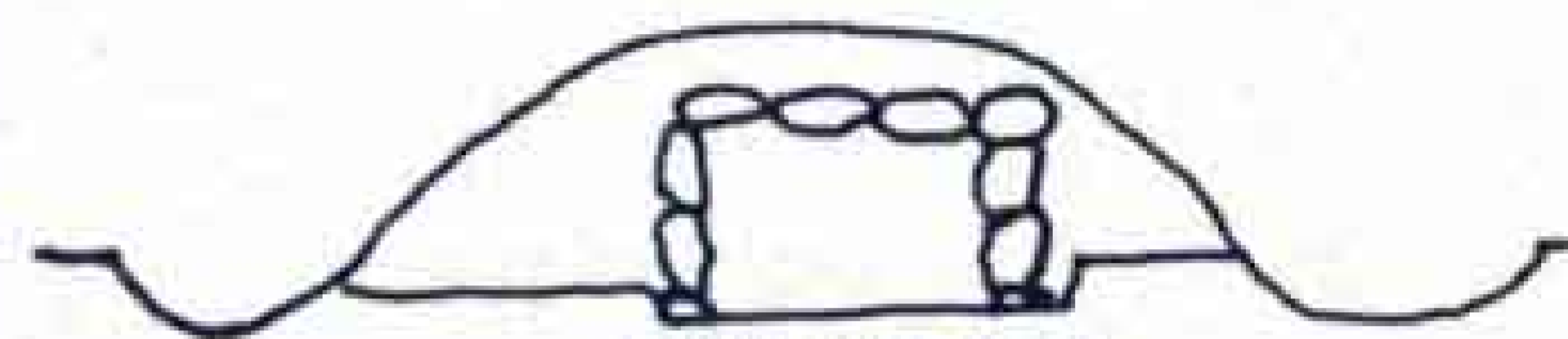
# 古墳のはなし ⑦

## 古墳と祖先の生活



横穴式石室

(断面形)



竖穴式石室

## 古墳時代のお葬式

今のお葬式は、人が死ぬと家族や親しい人々とお別れをする「通夜」というものをします。

そして火葬にして埋葬した後家族や親しい人々に不幸がないように、塩をまいたりして身を清めます。

古墳時代もこれと同じように人が死ぬと10数日の間「殯」という儀式を行います。これは喪主が泣き、親しい人々は死者のまわりで歌い、舞い、お酒を飲んだりします。そして埋葬が終わると家族は水浴して身を清めたということが「魏志倭人伝」に書かれています。

遺骸や副装品を納める石の室を「石室」といいます。石室は古墳の中央に石組みで築かれています。古墳時代の初めごろには、石室のほかに木製や陶器製の棺や粘土で遺骸を包んで葬っているものもあります。

## こちら編集室

富士市では初めての「青少年の船」が出航。わが編集スタッフも乗船し密着取材。2、3ページに写真レポートとして掲載しました。

研修生の体験談等も今後の広報紙に掲載する予定です。